岩手県立大学
Iwate Prefectural University

岩手県立大学年報

令和3年度

Iwate Prefectural University
Annual Report 2021

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。

（岩手県立大学「建学の理念」）

岩手県立大学の沿革

1951年4月	岩手県立盛岡短期大学開学
1990年4月	岩手県立宮古短期大学開学
1998年4月	岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
2000年4月	大学院を開設［ソフトウェア情報学研究科博士前期課程・同後期課程／総合政策研究科博士前期課程］
2002年4月	大学院を開設［看護学研究科博士前期課程／社会福祉学研究科博士前期課程／総合政策研究科博士後期課程］
2004年4月	大学院を開設［看護学研究科博士後期課程／社会福祉学研究科博士後期課程］
2005年4月	公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任 第一期中期目標・中期計画期間スタート 岩手県立大学地域連携研究センター設置
2006年4月	盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設 共通教育センター設置
2009年4月	中村慶久学長が就任
2011年4月	第二期中期目標・中期計画期間スタート いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）設置 地域政策研究センター設置
2013年4月	高等教育推進センター設置
2014年4月	共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
2015年4月	鈴木厚人学長が就任
2017年4月	第三期中期目標・中期計画期間スタート

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”

［未来を切り拓く力を高める教育］
［未来創造に資する地域貢献］
［教育と地域貢献の根幹となる高い研究力］

岩手県立大学年報−令和3年度−　目次

- 第三期中期目標･計画及び令和3年度業務実績 …… 03
- 令和3年度アカデミックインパクトの活動状況 …… 05
- 令和3年度地域貢献の活動状況 …… 07
- 令和3年度研究の活動状況 …… 09
- 令和3年度教育の活動状況 …… 13
- 令和4年度入学及び令和3年度卒業･就職の状況 …… 15
  - 令和4年度の入学者選抜の状況 …… 15
  - 令和3年度の卒業者及び就職の状況 …… 17
- 令和3年度財務状況 …… 19
- 組織図 …… 21
- 役職員 …… 22

岩手県立大学トピックス　−令和３年度−

iwate prefectural university topics

鈴木学長の文化功労者受賞について

鈴木学長が素粒子物理学の分野で、開発したカムランド実験施設により原子炉ニュートリノ振動現象を世界で初めて観測し、ニュートリノに質量があることを証明したことなどの功績により、文化功労者に選ばれました。
鈴木学長の略歴を抜粋して紹介します。

1974年	東北大学大学院理学研究科博士課程修了 高エネルギー物理学研究所（現高エネルギー加速器研究機構＝KEK）助手
1982年	東京大学理学部助手。故小柴昌俊さんの下でカミオカンデの装置開発を担当
1988年	高エネルギー物理学研究所助教授
1993年	東北大学理学部・大学院理学研究所教授
1998年	東北大学ニュートリノ科学研究センター長兼任
2003年	仁科記念賞「原子炉反電子ニュートリノの消滅の観測」
2005年	東北大学副学長（大学評価担当）
2005年	紫綬褒章「素粒子物理学における貢献」
2006年	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（KEK）機構長
2006年	日本学士院賞「反ニュートリノ科学の研究」
2015年	本学学長（～現在）
2021年	文化功労者

学生活動

若者視点で日詰商店街の活性化活動を企画

総合政策学部の有志団体「みよしぜみ」の４人が、紫波町日詰商店街を活性化する企画の立案と実施に取り組みました。商店街で開催されている朝市で本学のさんさ踊りの披露や、子どもを対象とした企画として駄菓子屋オープンなどを行いました。この活動は、本学の学長奨励賞を受賞したほか、紫波町から表彰状が贈られました。

学生活動

LINKtopos2021 開催

９月15日・16日に本学が主催大学となり、公立大学学生ネットワークLINKtopos（リンクトポス）2021をオンラインで開催しました。震災から10年を経た今大会では、全国の公立大学の学生や教職員約130名が参加し、東日本大震災に関する伝承活動等についての講演や、三陸鉄道の震災学習列車の取組等の事例紹介ワークショップに取り組みました。

学生活動

メディアセンター × 学生協働企画開催 トークイベント「わたしの生と性 ～セクシュアリティって何？～」

12月18日にいわてレインボーマーチをゲストに迎え、多様な生・性について理解を深めるためのトークイベントを開催しました。これは、メディアセンター（図書館）で活動する学生スタッフLA（ライブラリーアテンダント）と、本学の学内サークル「7Life（セブン・ライフ）～生と性を考える～」との協働で開催しました。

教　育

「情報」と「数学」の教職課程新設

ソフトウェア情報学部において教職課程の改定が行われ、2022年度入学生から高校の「情報」に加え、中学・高校の「数学」の教員免許が同時に取得できるようになりました。複数免許取得者となることで、本学学生の進路選択の幅が広がることが期待されます。

研　究

AIで平民宰相の声を再現

ソフトウェア情報学部の榑松理樹准教授が、原敬100回忌記念事業の一環として、盛岡市出身で「平民宰相」の名で親しまれた原敬元首相の声を、人工知能（AI）の技術を使って再現する研究に取り組みました。再現された声は、盛岡市の原敬記念館で公開されています。

研　究

大槌町被災跡地、希少動植物の保護区へ

東日本大震災で被災した大槌町須賀町に、自然保護区域「郷土財活用湧水エリア」が整備されました。このエリアには、希少種の「ミズアオイ」も生育しています。6月5日に行われた落成式では、総合政策学部の島田直明准教授が当エリアのミズアオイについて説明しました。

大学運営

東日本大震災の記録誌刊行

3月11日に、東日本大震災津波発災から10年間の本学の復興支援活動をまとめた記録誌「東日本大震災津波復興支援の歩み」を発行しました。初動対応と学生や被災地への復興支援等をまとめた「初動対応と10年の記録」編と、当時の学生や教職員等へのインタビューや寄稿を掲載した「私たちが語るこれまでとこれから」編の２冊構成です。震災の風化防止とともに、今後の大規模災害発生時の対応に向けて、県内の市町村や全国の大学等へ配布しました。

その他

ＪＡ新いわて様及びJA全農いわて様からの食材の寄贈

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている学生への支援として、7月6日にＪＡ新いわて（新岩手農業協同組合）様から宮古キャンパスに対し、あきたこまち420kgの寄贈をいただきました。また、7月20日には、ＪＡ全農いわて様から滝沢キャンパスに対し、野菜や牛肉等の食材の寄贈をいただきました。寄贈された食材は、学生への配布や食堂での安価なメニューの提供など、学生たちが日常生活を送る上での大きな助けとなりました。いただきましたご支援に深く感謝申し上げます。

第三期中期目標・計画及び令和３年度業務実績

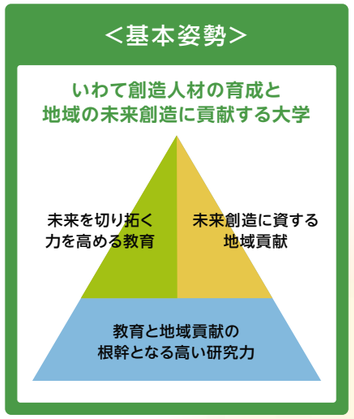
第三期中期目標・計画

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、平成29年度から令和4年度までの6年間の第三期中期目標期間において、東日本大震災津波からの復興とその先を見据えながら、**「ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む学びの府」**として、第三期中期目標に掲げられている**「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」**を目指します。

この目標の実現に向けて、開学以来取り組んできた**「地域に根ざした実学・実践重視の教育研究活動」**に加え、開学20周年（平成30年）を契機とした教育研究組織の見直しとともに、**社会環境の変化や地域社会のニーズに対応した教育研究活動や地域貢献活動に取り組んでいきます。**

第三期**中期目標**



第三期**中期計画**における「重点的に取り組む事項」

第三期中期計画では、中期目標を達成するために教育、研究及び地域貢献の各分野で重点的に取り組む事項を掲げ、全学を挙げて取組を展開しています。

教育
全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

POINT
いわての「未来を創造する人材」を育成するため、産業界・地域等との連携の下、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と学生の主体的学修を促す能動的学習の推進

研究
教育と地域貢献を支える研究活動の強化

POINT
いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

地域貢献
地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

POINT
いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

令和３年度の主な業務実績

岩手県地方独立行政法人評価委員会からは、年度計画に掲げる45項目のうち、ＡＡ評価（特筆すべき進行状況にある）が４項目、Ａ評価（計画どおり進んでいる）が35項目、Ｂ評価（おおむね計画どおり進んでいる）が６項目とされ、「おおむね計画どおり進められたと認められる」との評価結果が示されました。

具体的には、ソフトウェア情報学研究科における新カリキュラムの整備や学生の主体的な学修機会の提供、産学公連携による研究プロジェクトの推進、メディアミクスによる広報活動に成果がありました。一方で、新型コロナウイルス感染症の想定以上の感染拡大により、一部の事業が中止又は延期となり、令和4年度以降の実施に向けて見直しの検討を行いました。

教育

全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

- ●ソフトウェア情報学研究科における学士課程・修士課程を接続した６年一貫教育を想定した新カリキュラムの整備
- ●教学ＩＲセンターの令和４年度設置を決定
- ●経済不安等の課題を抱える学生に対する適切な相談対応及び授業料減免の実施
- ●学生図書活動団体（ライブラリーアテンダント）との共同による企画展の実施やSNSを活用した広報活動等による学生の主体的な学修機会の提供

研究

教育と地域貢献を支える研究活動の強化

- ●地域ニーズの把握・分析及び学内シーズとのマッチングによる共同研究等の推進（共同研究47件、受託研究６件、包括連携協定の締結１件）
- ●科研費採択率向上支援チームによる研究計画書作成支援の実施
- ●ＩＴ技術を活用した新製品・新サービスの創出に向けたイベント「コンバージェンス@いわてイノベ」の開催による異分野交流の促進

地域貢献

地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

- ●小学生～高校生を対象としたプログラミング教室の開催
- ●東京大学が代表機関を務める「資源を循環させる地域イノベーションエコシステム研究拠点」（ＪＳＴ共創の場形成支援プログラム・育成型）に本学の参画が決定、育成型から本格型に昇格採択
- ●東日本大震災津波から10年間の復興支援活動等を記録した「東日本大震災津波復興支援の歩み」の作成、配付

業務運営等

教育研究活動を支える自主的・自律的な法人運営

- ●ＲＰＡシステムの試行導入や研修会の開催による業務改善の推進
- ●広報対象毎に媒体を選択したメディアミクスによる広報活動の展開、各種アンケートやアクセス解析ツールの活用による広告効果の検証
- ●新型コロナウイルス感染症に対する多彩な感染対策の実施並びに今後の感染症対応を見越したLMSの導入、ネットワークの強化及び遠隔授業や在宅勤務の環境整備

国連アカデミック・インパクト

概要

本学は、2019年5月、国連アカデミック・インパクト（以下「UNAI」という。）に加盟しました。

UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。

本学は、UNAIに関連する様々な教育研究、地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうちの４原則に参加しています。

原則６：人々の国際市民としての意識を高める
原則８：貧困問題に取り組む
原則９：持続可能性を推進する
原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く
【参考】国連アカデミック・インパクトJapanのウェブサイト
これらの４つの原則は、本学の建学の理念と合致しています。

活動報告書

◆ 活動報告書とは

UNAIの加盟大学は、UNAIの10原則のうち、各年度に少なくとも１つの原則に係る活動を実施し、UNAI事務局に報告することとされています。

◆ 岩手県立大学の活動報告書

本学でもこれまでのUNAIに関連する活動について、活動報告書を取りまとめており、本学の公式ウェブサイトに掲載しています。

岩手県立大学のホームページトップ画面から、「国際交流」のページを参照。

1 青少年に対する社会生活スキルトレーニング（Social Skills Training）

看護学部　講師　佐藤史教 ／ 学生団体 HOSSTY

看護学部では、高校生の対人関係技能の向上を図るため、岩手県内の高校で社会生活スキルトレーニング（Social Skills Training；以下「SST」という。）を継続的に実施しています。

SSTは、統合失調症の慢性期にある人の対人技能を高めるために開発された認知行動療法の1つであり、現在では、子どもに対するSSTも病院や学校、放課後等デイサービスなど、様々な場で行われるようになってきています。

また、本学のアイーナキャンパスで、発達障害をもつ小中高生を対象に、毎月1回SSTによる対人関係技能の向上に取り組んでいます。

小学生向けSSTの様子

2 岩手県内の児童養護施設の思春期女子へのリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖の健康）ケア

看護学部　教授　福島裕子、助教　伊藤沙織、助手　山内侑里

看護学部では、看護学・助産学の専門家の立場から、岩手県内の児童養護施設で生活している思春期の女性利用者を対象にリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖の健康。）ケアモデルを開発し、実践しています。

児童養護施設の女性利用者は、母親からの性と生殖の健康に関する様々な知恵の伝承がされにくい環境で生活し、愛着障害を根底とした心理社会的問題を持つ場合もあり、同年代に比べて性行動開始が早く、予期せぬ妊娠や性感染症の罹患、性暴力被害のリスクが高いといわれています。

リプロダクティブ・ヘルスケアの様子

このリプロダクティブ・ヘルスケアモデルは、虐待等を経験した女性利用者に、生と生殖の知識だけでなく、自己の存在や性の受容を促し、将来の性の自己決定につなげることを目指しています。

3 障がいのある子どもと家族のケア研修会

事務局責任者：原瑞恵（看護学部　准教授）
事務局メンバー：及川佳子（こずかたこども園）、川村貴子（岩手県立療育センター）、大和田毅（独立行政法人国立病院機構釜石病院）、髙橋佑里香（看護学部　助手）

看護学部では、主に岩手県内の障がいのある子どもを養育している家族の方々と子どもと家族のケアに携わっている医療職や福祉職の方々の意見を取り入れ、年2回研修会を行っています。この研修会は、家族の方々と支援者が意見交換しながら、子どもや家族の状況、お互いのケア状況を把握し、障がいのある子どもと家族にとってよりよいケアとなるよう考える機会を提供することを目的としています。

障がいのある子どもと家族のケア研修会チラシ

4 河川の可視化と３次元モデルを活用した河川の多面的管理・活用

プログラム責任者：土井章男（ソフトウェア情報学部　教授）
プログラムメンバー：佐井守（西和賀淡水漁業協同組合/環境創造会議）原田昌大（㈱タックエンジニアリング）小林剛、横内孝之（リコージャパン㈱）榊原健二、槻ノ木沢拓孝（㈱憲PCM）

本研究のプロジェクトチームは、河川の様々な情報（360度画像、3Dモデル、点群データ、数値情報等）の可視化・表示可能なMAPの開発を目的として、プラットフォームとなるGISの選定や、データの取得等を行いました。選定したArcGISを用いて流域ジオマップを作成し、データ表示の検証を行いました。

流域ジオマップ

5 地域社会論演習：「『雲を紡ぐ』でつながろうプロジェクト」との連携～井戸水とホームスパンのおもてなし～

三須田善暢（盛岡短期大学部　准教授）、及川明音、菅沼秀、高岡摂、村松冴恵（2021年度国際文化学科学生）

盛岡短大部国際文化学科2年次の授業である「地域社会論演習」では、地域で企画をたてて実施し、それを学びに役立てること（サービスラーニング）を趣旨としています。演習では、盛岡市と盛岡まち並み塾がおこなっている「『雲を紡ぐ』でつながろうプロジェクト」と連携し、町の人達との交流を通じて町の魅力と課題を考える機会としています。

お茶会の様子

2021年度は、井戸水で著名な盛岡市鉈屋町を舞台として、井戸掃除の支援、井戸水でのお菓子づくり、手芸品の制作及びお茶会の開催を企画しました。

6 リーディング・マラソン室における異文化間理解の促進取組について～人を通して異文化を知る＆異文化の本を通して人を知る～

盛岡短期大学部　国際文化学科　准教授　熊本早苗、准教授　吉原秋、講師　ヘイミッシュ・スミス

盛岡短期大学部国際文化学科では、「豊かで実践的なコミュニケーション能力」を強化・補強するため、自立型外国語学習事業としてリーディング・マラソン室（Reading Marathon Room）を実施しています。

外国語運用能力向上のためには、学習者自身が主体的に学ぶ環境が必要不可欠です。その学びを支援する学習環境を実現すべく、対象言語を母語とするネイティヴ・スピーカーもしくはそれに準じる外国語話者のラーニング・アドバイザー（Learning Advisor, 以下LAと略）を配し、本学教職員とLAが連携しながら実施しています。

リーディングマラソンの教材

7 国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ　韓国語オンライン研修

盛岡短期大学部　国際文化学科　教授　石橋敬太郎、准教授　吉原秋

盛岡短期大学部国際文化学科の１年次の「国際文化理解演習」では、地域から世界へと視野を広げ、国際人としての知見を身につけ、多様な文化を学ぶため、アメリカ又は韓国での海外研修を行っていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は、中止にせざるを得ませんでした。2021年度は、学生が外国語・異文化を学ぶ機会を確保するため、オンラインによる研修を実施し、７名の学生が、慶熙大学校国際教育院の韓国語短期オンライン課程を受講しました。

韓国語オンライン研修の受講者

8 宮古短期大学部における異文化理解促進の取組み

宮古短期大学部　准教授　三村敬之、講師　大前義幸

宮古短期大学部では、異文化理解促進のため、「国際交流に関する講演会」の開催と「English Time」の実施に取り組んでいます。

2021年12月に開催した「国際交流に関する講演会」では、宮古市の国際交流担当者を講師に「宮古市在住外国人への取り組みの現状」と題して講話をいただきました。講演の後は、「一人ひとりの国際理解」と題し、外国での生活理解に関するグループワークを行いました。

また、2021年7月と12月に、外国人講師を招いて英会話交流イベント「English Time」を開催しました。参加者は講師と英語でやりとりをしながら、国際理解を深めました。

講演会後のグループワーク

9 「心の時計」再始動へ～岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団 活動紹介～

宮古短期大学部　教授　田中宣廣、学生団体　岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団

「岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団」は、地域でのボランティア活動を通じて地域に対する理解を深めるとともに、地域に貢献するため、2008年に活動を開始しました。

献血活動

東日本大震災津波発災後は、支援物資の仕分け作業や、被災家屋及び道路側溝の清掃作業に取り組みました。震災から10年が経過しましたが、地域の住民の「心の時計」の再始動のため、様々な活動を通じて支援活動を継続しています。

10 LINKtopos2021の開催について～公立大学学生ネットワーク／ LINKtopos2021 in IWATE ～

岩手県立大学運営チーム

全国公立大学学生大会「LINKtopos」は、2012年、東日本大震災のボランティア活動を契機に組織された「公立大学学生ネットワーク」が主体となって、年に一度全国の大学生が集い、災害支援、防災、地域活動等をテーマに、ワークショップ等を通じて研鑽・交流を図っています。

東日本大震災から10年という節目の年に、本学が開催校となって、「あれから、これから」をテーマに、2021年9月15日～ 16日の2日間、Zoomを活用したオンライン形式で開催しました。メインプログラムとして、「配慮・ケア」、「復興・まちおこし」、「コロナ禍における地域活動」をテーマに、ワークショップを行いました。

LINKtopos2021全国の公立大学の学生企画チーム

新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年４月に岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画（2019～2028）に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとしました。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」（センター長：研究・地域連携本部長兼務）を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、人材育成などに取り組んでいます。

令和３年度は、岩手県との共同研究や受託研究のほか、前年度に創設した学内研究費により北いわてをフィールドとした研究活動を展開するとともに、北いわての将来を担う人材育成を目的に、高校生を対象とした出前講座を実施しました。これらの取組状況については、２月に開催された「北いわて産業・社会革新推進コンソーシアム・シンポジウム」の中で、自治体や企業などの関係者に向けて広く発信しました。

県立一戸高等学校での出前講座の様子

地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るため、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

盛岡市と共同で設置した「盛岡市まちづくり研究所」における共同研究では、令和３年度に実施された「第12回都市調査研究グランプリ（CR-1グランプリ）」で政策基礎部門優秀賞を受賞しました。

● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向けた共同研究に取り組んでおり、課題解決プランの策定を支援する「ステージⅠ」（研究期間：単年度）と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージⅡ」（研究期間：２か年度）を設け、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。令和３年度は、ステージⅠで28課題、ステージⅡで９課題の研究に取り組みました。

● 市町村の地方創生への取組支援

本学では、平成27年度より、市町村の地方創生の取組を支援しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定・推進や、地方創生を担う市町村職員の政策法務能力向上等の支援に取り組んでいます。令和３年度は、19市町村の有識者会議等に教職員を委員等として派遣し、うち１市には併せて総合戦略掲載事業等への指導・助言等を行ったほか、６市町を対象に政策法務に係る相談や研修対応等を支援しました。

公開講座等各種講座の開催

県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元を図るため、毎年夏に滝沢キャンパスで開催している公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により対面での開催を中止して、オンライン（オンデマンド）開催とし、全６講座をケーブルテレビで放送するとともに動画配信サイトで配信しました。各学部等は、アイーナキャンパスを拠点に、それぞれの専門性を生かした多様な講座等を開催し、令和３年度は、全47講座に延べ1,035人の参加がありました。

また、若手技術者・学生を対象に、高付加価値・高効率型ものづくりに不可欠な先端的技術をテーマとした高度技術者養成講習会を９講座開催し、59人の参加がありました。

滝沢キャンパス講座
（オンライン開催）のチラシ

Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、プログラミング教室の成果を「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト2021 in Mitaka」のゲーム部門に応募して、２作品が一次審査を通過し、12月に行われた最終審査会において、うち１作品が第２位に相当する優秀賞を獲得しました。

中高生国際Rubyプログラミングコンテスト最終審査会の様子

◆戦略的研究プロジェクトの推進

大型・学際連携型外部研究資金の獲得を目指す、本学の「顔となる研究プロジェクト」として平成30年7月に創設。本学の特徴を生かした研究を促進するとともに、本県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出に貢献するため、令和3年度は、継続中の5つの研究チームが研究プロジェクトに取り組みました。

◆全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。「震災復興」、「人口減少対策」、「地域産業振興」、「学際分野開拓」に関するものを優先採択課題とし、令和3年度は6件を採択しました。

◆外部研究資金の獲得状況

令和4年度科学研究費への応募は108件、採択は20件で、採択率は38.1％（前年度34.8％）でした。また、令和3年度の共同研究、受託研究等及び奨学寄附金の獲得件数は合計48件（同5件減）、受入金額は70,072千円（同9,929千円増）でした。

◆看護実践研究センターの取組

県民のQOLと岩手の看護の質の向上に寄与するため、看護職の継続教育等を実施。令和3年度は、「岩手県新人看護職員研修」に28施設から68名、各教員の専門性を活かした「専門職研修事業」には10種類に346名の参加がありました。県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」を10施設で実施しました。また、令和3年度から地域貢献事業にも力を入れています。学生を活用して滝沢市の健康ダンス「イ・ン・ダ」の座位バージョン作成やウォーキング促進活動、両親学級に参加できない夫婦向けの沐浴動画制作など、滝沢市保健師と協働して住民の健康推進事業に取り組んでいます。令和４年度も地域貢献事業の発展的取り組み、12年目となる岩手県受託事業の新人看護職員研修を中心に、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら継続的に活動していく予定です。

滝沢市健康ダンス「イ・ン・ダ」座位バージョンの動きの一部

地域協働研究

地域協働研究は、地域の諸団体と本学教員が協働で、地域が抱える課題の解決に取り組む研究です。地域政策研究センターの取組として、平成 24 年度に創設されました。これまで取り組んできた研究課題は、教員提案型・地域提案型あわせて 300 課題を超えます。
平成 29 年度からは、研究成果をできるだけ早く地域社会に届ける仕組として、下記のとおり研究費の制度を見直しました。

詳細はこちらから

岩手県立大学
ホームページ内
地域協働研究
関連ページ

〔ステージⅠ〕課題解決プラン策定ステージ
地域課題を解決する方策を策定するための調査研究の段階。
研究費：1課題当たり上限 30 万円（研究期間：単年度）

〔ステージⅡ〕研究成果実装ステージ
地域課題を解決するために実施した本学の調査研究の成果を実際に地域に活用する活動の段階。
研究費：1課題当たり上限 100 万円 / 年（研究期間：2か年度）

≪ステージⅠ：課題解決プラン策定ステージ≫

※研究代表者 五十音順

看護学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	発達障害をもつ子どもの学習支援システムの構築	佐藤　史教	進学塾TomoZemiグループ	R3年4月～R4年3月
2	公的サービスに依存しない介護予防個別プログラムの構築	馬林　幸枝	有限会社ホームセンター仙台	R3年4月～R4年3月

社会福祉学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	岩手県沿岸地域の建設産業における若年労働力確保のための施策に関する研究	柴田　徹平	岩手県沿岸広域振興局土木部	R3年4月～R4年3月

ソフトウェア情報学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	学校でのICT活用を促進する産学官連携に関する研究－ICT活用を実践・研究する先生応援プロジェクト－	高木　正則	岩手県教育委員会事務局 学校調整課	R3年4月～R4年3月
2	流域ジオマップの分野横断的活用 ～DXによる地域課題解決～	土井　章男	西和賀淡水漁業協同組合	R3年4月～R4年3月
3	SNS相談の地域版ゲート「こころの相談窓口誘導ボット」を活用した自殺予防のためのゲートキーパー育成のあり方に関する基礎検討	富澤　浩樹	盛岡市保健所保健予防課	R3年4月～R4年3月
4	市民参加型海岸・河川漂着物モニタリングシステムに関する研究	富澤　浩樹	岩手県環境生活部資源循環推進課	R3年4月～R4年3月

総合政策学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	投票率の向上を目的とした有権者の意識調査	市島　宗典	岩手県明るい選挙推進協議会	R3年4月～R4年3月
2	地域の森林資源を活かした林産業・再生可能エネルギー利用の展望－地域に仕事を生み出すSDGs－	泉　桂子	一戸町・㈱柴田産業	R3年4月～R4年3月
3	盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証　－盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス－	宇佐美　誠史	もりおか交通まちづくり LRTフォーラム	R3年4月～R4年3月
4	多世代参加型の商店街地図創作・活用による学びと交流を広げる地域再生	倉原　宗孝	洋野町	R3年4月～R4年3月
5	二戸駅前・石切所地区の商業活性化に関する研究	倉原　宗孝	二戸市	R3年4月～R4年3月
6	地域介護福祉事業者での新技術を活用した介護現場の効率化と働き方改革－社会実装を意図したモデル構築とその検証－	近藤　信一	岩手県県北広域振興局・社会福祉法人いつつ星会・株式会社航和	R3年4月～R4年3月
7	岩手県北部における鳥越竹細工用スズタケ残存箇所の効率的な把握	島田　直明	岩手県県北広域振興局農政部二戸農林振興センター林務室	R3年4月～R4年3月
8	木賊川遊水地において新たに発見された希少野生生物の生態解明とそのアウトリーチにおける課題整理	鈴木　正貴	たきざわ環境パートナー会議	R3年4月～R4年3月
9	大船渡湾の水質汚濁要因の解析と改善に向けた地域における対策の抽出	辻　盛生	岩手県沿岸広域振興局保健福祉環境部・大船渡保健福祉環境センター	R3年4月～R4年3月
10	盛岡広域「地方創生SDGs登録等制度」に係るフィージビリティ・スタディ	新田　義修	盛岡市市長公室企画調整課	R3年4月～R4年3月
11	岩手県内市町村の2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ策定	平井　勇介	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて	R3年4月～R4年3月
12	在住外国人の実態調査による多文化共生社会推進に向けた施策提案－岩手県盛岡市の事例－	山田　佳奈	盛岡市交流推進部文化国際課	R3年4月～R4年3月
13	道の駅「青の国ふだい」を拠点とした地域活性化に関する調査研究	山本　健	普代村	R3年4月～R4年3月
14	奥州市産めん羊生産農家についての経営調査	山本　健	奥州市農林部	R3年4月～R4年3月
15	藤沢野焼祭を生かした持続可能な地域の創造	吉野　英岐	藤沢野焼祭実行委員会	R3年4月～R4年3月

盛岡短期大学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	外国人市民の医療環境等の整備に向けた取り組みについて	石橋　敬太郎	奥州市・奥州市国際交流協会	R3年4月～R4年3月

宮古短期大学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	観光客誘客に向けた観光消費を促進するためのコンテンツの構築	大志田　憲	一般社団法人宮古観光文化交流協会	R3年4月～R4年3月
2	消費者施策における持続可能な社会の実現に関する研究	齋藤　香織	岩手県立県民生活センター	R3年4月～R4年3月
3	農業法人等の連携による新たな福利厚生システムの構築	平田　哲兵	岩手県盛岡広域振興局農政部	R3年4月～R4年3月
4	女性の社会増に向けた効果的な施策形成のための調査研究	松田　淳	宮古市	R3年4月～R4年3月
5	生徒、学生の考案による農水産物を活用した地域活性化	松田　淳	岩手県立宮古水産高等学校	R3年4月～R4年3月

≪ステージⅡ：研究成果実装ステージ≫

※所属別、研究代表者 五十音順

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	両磐圏域における支援を要する子どもの支援ファイルの実用化と他機関連携	佐藤　匡仁 （社会福祉学部）	一関市保健福祉部子育て支援センター	R2年4月～R4年3月
2	集落機能強化加算制度と人材マッチングシステムのドッキングによる中山間地域における課題解決実践モデルの構築	菅野　道生 （社会福祉学部）	北股地区振興会	R2年4月～R4年3月
3	未就学児の親子を対象とする教育福祉の複合的読書支援プログラムの実践	櫻　幸恵 （社会福祉学部）	北上市立中央図書館	R3年4月～R5年3月
4	被災者生活再建と持続発展する地域コミュニティ形成のモデル創造としての「内陸災害公営住宅・南青山アパート」の建設・管理・運営における実践研究	倉原　宗孝 （総合政策学部）	岩手県・もりおか復興支援センター	R2年4月～R4年3月
5	歴史文化から耕す地方都市における住民主体・連携によるまちづくりの実践とモデル構築	倉原　宗孝 （総合政策学部）	紫波歴史研究会	R3年4月～R5年3月
6	県内中小企業におけるデザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築　－岩手発〔地方版〕デザイン経営モデルと支援システムの確立	三好　純矢 （総合政策学部）	地方独立行政法人岩手県工業技術センター	R3年4月～R5年3月
7	中小縫製企業のIoTやAIなど新技術活用による経営基盤強化と女性の雇用拡大－県内縫製業企業での実証とプロトタイプ開発、そして全国普及版システムの開発	植竹　俊文 （ソフトウェア情報学部）	一般社団法人北アパレル産業振興会・岩手県県北広域振興局	R2年4月～R4年3月
8	多様な来館者ニーズに対応した野外美術館ガイドシステムの開発と実用化	阿部　昭博 （ソフトウェア情報学部）	石神の丘美術館	R3年4月～R5年3月
9	小中学校児童生徒のプログラミング的思考の育成へ向けた取組について	市川　尚 （ソフトウェア情報学部）	滝沢市教育委員会	R3年4月～R5年3月

科学研究費助成事業

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行います。

本学では、応募申請に対する支援体制を整えるなど、採択率向上に向けた取組を行っています。

詳細はこちらから

科学研究費助成事業データベース
「研究機関」に「岩手県立大学」
と入力して検索。

看護学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	挙児を希望する有配偶女性に対するリプロダクティブライフプランニング支援の構築	アンガホッファ　司寿子
2	基盤研究(C)(基金)	慢性呼吸器疾患を併存する糖尿病患者のセルフケアを支援するための援助指針の開発	内海　香子
3	基盤研究(C)(基金)	学習者中心パラダイムに基づく看護人材育成のための自己点検支援ポータル開発	遠藤　良仁
4	基盤研究(C)(基金)	特別支援学校以外の学校における医療的ケア必要児童生徒への支援システムモデルの構築	大久保　牧子
5	基盤研究(C)(基金)	訪問看護ステーションと自治体との連携を強化するための研修プログラムの開発	工藤　朋子
6	基盤研究(C)(基金)	コアコンピテンシーを学修目標とした看護学実習アセスメントのシステム開発	工藤　真由美
7	基盤研究(C)(基金)	患者にとって安全で苦痛のないフラッシング技術の実態調査および実証実験による検証	小向　敦子
8	基盤研究(C)(基金)	油性徐放性製剤の筋肉内注射により発生する硬結を予防するための看護ケア方法の確立	高橋　有里
9	基盤研究(C)(基金)	児童養護施設思春期女子へのリプロダクティブ・ヘルスケアモデルの構築と汎用化	福島　裕子
10	基盤研究(C)(基金)	助産師と協働した児童養護施設のリプロダクティブ・ヘルスケア実施体制の構築と検証	福島　裕子
11	基盤研究(C)(基金)	終末期がん患者の倦怠感軽減ケアプログラムの開発と臨床応用	細川　舞
12	基盤研究(C)(基金)	内分泌療法を受ける乳がん女性へのセクシュアル・ヘルスケアモデルの開発と評価	谷地　和加子
13	若手研究(基金)	新任期保健師の内発的動機付けを促すピアサポートシステムの構築	尾無　徹
14	若手研究(基金)	地域に根ざした小児在宅ケアに向けた看護職の協働促進モデルの構築	原　瑞恵

社会福祉学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	障害のある従業員に対する職場での配慮における事業主の意思決定モデル	小澤　昭彦
2	基盤研究(C)(基金)	障害者雇用における障害者に対する合理的配慮提供モデルの構築	小澤　昭彦
3	基盤研究(C)(基金)	精神障害者の地域生活支援におけるクライシス・プランの実践と研修プログラムの開発	狩野　俊介
4	基盤研究(C)(基金)	非正規雇用スクールソーシャルワーカーはどう学ぶか―専門性形成と実践コミュニティ	櫻　幸恵
5	基盤研究(C)(基金)	参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発	佐藤　哲郎
6	基盤研究(C)(基金)	地域を基盤とした住民・専門職協働による【地域福祉実践】参加型評価法の開発	佐藤　哲郎
7	基盤研究(C)(基金)	自閉スペクトラム症幼児の就学前教育・保育施設における園生活リスクとリスク評価分類	佐藤　匡仁
8	基盤研究(C)(基金)	対象の非人間化による共感抑制過程に関する研究	田村　達
9	若手研究(B)(基金)	自主防災組織の形成にみる選択とその論理-住民の日常的営為に着目して	庄司　知恵子
10	若手研究(基金)	災害派遣福祉チームによる被災地でのソーシャルワーカー活動モデルの開発に関する研究	伊藤　隆博
11	若手研究(基金)	中山間地域等における子ども虐待対応の調整機能強化に関する研究	實方　由佳
12	若手研究(基金)	シェアリングエコノミーにおける個人請負就労者の労働者保護の範囲に関する研究	柴田　徹平
13	若手研究(基金)	トランスナショナルな福祉サービス供給体制の構築	日野原　由未
14	若手研究(基金)	大都市在住高齢者によるボランティア活動を促進する活動年数別による支援内容の検討	本間　萌
15	若手研究(基金)	音楽学習者のための「聴く力」の育成:エドガー・ウィレムスの音楽教育実践に着目して	若林　一惠
16	挑戦的研究(萌芽)(基金)	ソーシャルワーカー(社会福祉士)養成教育に対するエスノメソドロジー導入効果の研究	藤田　徹
17	研究活動スタート支援(基金)	重大犯罪少年の処分選択に関する質的比較分析	秋本　光陽
18	研究活動スタート支援(基金)	トラウマに関するしろうと理論に着目した予防的心理教育の要因の解明	瀧井　美緒

ソフトウェア情報学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	野外ミュージアムの特質を踏まえたデジタルマーケティング手法の実践的研究	阿部　昭博
2	基盤研究(C)(基金)	高大連携による情報科の「モデル化とシミュレーション」教育のデザインに関する研究	市川　尚
3	基盤研究(C)(基金)	ゼロ・少音声言語資源の音声処理技術の構築	伊藤　慶明
4	基盤研究(C)(基金)	激甚化する風水害の特性と財務変動を考慮した短期的リスクファイナンス評価手法の研究	大堀　勝正
5	基盤研究(C)(基金)	警告ダイアログデザインを活用したセキュリティ意識の向上および持続可能性の探求	小倉　加奈代
6	基盤研究(C)(基金)	近未来型VRライブ配信環境におけるコミュニケーション支援システムの開発	齊藤　義仰
7	基盤研究(C)(基金)	プラス要因・マイナス要因を考慮した実時間型観光スポット推薦システムの研究	佐々木　淳
8	基盤研究(C)(基金)	視聴覚運動知覚の脳内表現の解明	眞田　尚久
9	基盤研究(C)(基金)	対話エージェントとダッシュボードを活用した自己調整を促すオンライン学習環境の構築	高木　正則
10	基盤研究(C)(基金)	教育から始める人間中心のセキュリティ対策手法	高田　豊雄
11	基盤研究(C)(基金)	Development of Fast and Highly Effective Feature Subset Selection Algorithms based on Novel Integration of Quantum Computing and Machine Learning	チャクラボルティ　バサビ
12	基盤研究(C)(基金)	震災関連資料の利用促進を目的とした資料循環型デジタルアーカイビングシステムの研究	富澤　浩樹
13	基盤研究(C)(基金)	家の中のアフォーダンスの可視化:乳幼児の事故予防・発達のためのデータ活用基盤構築	西﨑　実穂
14	基盤研究(C)(基金)	実用的単眼プロジェクター型・多視点3D球体ディスプレイの開発	PRIMA・OKY・DICKY・ARDIANSYAH
15	基盤研究(C)(基金)	時・場所・状態を考慮した社会課題解決につながるWebパーソナライズ技術の提案	堀川　三好
16	基盤研究(C)(基金)	郷土芸能伝承のための「個」「集団」の「上手さ」の分析・可視化に関する研究	松田　浩一
17	若手研究(B)(基金)	SS超音波を用いた人・ロボットの屋内位置情報計測・蓄積システム	鈴木　彰真
18	挑戦的研究(萌芽)(基金)	歌舞伎の物語生成―多重物語構造・型・芸能情報システムに基づく調査と構成―	小方　孝
19	学術変革領域研究(A)(補助金)	質感運動知覚に寄与する神経基盤の解明	眞田　尚久
20	研究活動スタート支援(基金)	ICTを活用した数学実験・実験数学による生徒の主体性の涵養の試み	田村　篤史

総合政策学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	模擬投票を活用した主権者教育プログラムの開発とその普及に関する実践的研究	市島　宗典
2	基盤研究(C)(基金)	オンライン取引における「場の提供者」の法的責任	窪　幸治
3	基盤研究(C)(基金)	防災と福祉を結ぶ(逃げる視点からの)参加のまちづくりの実践活動とモデル・理論構築	倉原　宗孝
4	基盤研究(C)(基金)	被災地における水産業の復興と生産主体の課題―国際比較を通した岩手モデルの可能性	桒田　但馬
5	基盤研究(C)(基金)	不完備選好と意思決定理論の諸分野の関連に注目した理論的分析とその応用	小井田　伸雄
6	基盤研究(C)(基金)	東日本大震災津波被災地における水産加工業の協業化による水産業クラスターの新展開	新田　義修
7	基盤研究(C)(基金)	震災被災地の「日常の再構築」過程における意識調査:地域社会の分断・格差に着目して	堀竜　義裕
8	若手研究(B)(基金)	開発経験からみる環境保全型地域づくりの論理	平井　勇介
9	若手研究(基金)	社会ネットワークの多次元属性に基づく職業異類結合の実態・要因解明	鈴木　伸生
10	若手研究(基金)	韓国の非正規労働者の雇用安定と処遇改善のための法制度の立法効果に関する考察	徐　侖希
11	研究活動スタート支援(基金)	集団における社会関係資本の構成要素－機能間の循環的相互作用メカニズムの解明－	鈴木　伸生

盛岡短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	初期近代イングランドにおけるイスラム演劇の改宗のテーマとその政治的・宗教的推進力	石橋　敬太郎
2	基盤研究(C)(基金)	有賀同族団論の再検討:歴史社会学とコモンズ論の観点から	三須田　善暢
3	若手研究(基金)	屋外使用木材の耐用年数評価のための温度・水分暴露量と腐朽の関係式の構築	大澤　朋子

宮古短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	東北地方北部地域の方言アクセント区画に関する研究	田中　宣廣
2	若手研究(基金)	製品機能のオーバーシュートに関する経験的研究	鈴木　将人

高等教育推進センター

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	イエズス会布教活動から紐解くジェイムズ・ジョイスの東方への旅	伊東　栄志郎
2	基盤研究(C)(基金)	日ロ領土問題における千島の戦争とその記憶について	黒岩　幸子
3	基盤研究(C)(基金)	可能動詞化の方言横断的多様性とその知識の獲得に関する理論的・実証的研究	高橋　英也
4	基盤研究(C)(基金)	米国フェミニズムにおける多様性概念の形成とプエルトリカンのジェンダー	三宅　禎子
5	基盤研究(C)(基金)	中国農村資源の村集団経営による村の福祉力と高齢者の老後生活保障に関する実証研究	劉　文静
6	基盤研究(C)(基金)	On Raising from NP--One Rule of English Grammar and Its Theoretical Implications	ルプシャ　コルネリア
7	基盤研究(C)(基金)	政策評価分析による公立大学法人制度の評価の試み	渡部　芳栄
8	若手研究(B)(基金)	単元学習・プロジェクト型学習・新教科開発に見る教師の「カリキュラム意識」の研究	畠山　大
9	若手研究(基金)	シンティ・ロマの包摂と排除をめぐる歴史研究:ナチスと戦後西ドイツ社会	大谷　実

研究・地域連携本部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	IoTセンサ群を利用した次世代広域道路状況情報プラットフォームに関する研究	柴田　義孝
2	基盤研究(C)(基金)	Healthcare Risk Prediction on Data Streams Employing Cross Ensemble Deep Learning	藤田　ハミド
3	基盤研究(C)(基金)	折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究	松本　博明
4	基盤研究(C)(基金)	健足同期制御高機能義足の開発	村田　嘉利
5	基盤研究(C)(基金)	エスカレーター内の歩行特性と安全性・快適性に関する基礎研究	元田　良孝

令和３年度教育の活動状況

教学マネジメントを支えるアセスメント・ポリシーの策定

教学マネジメントとアセスメント・ポリシー

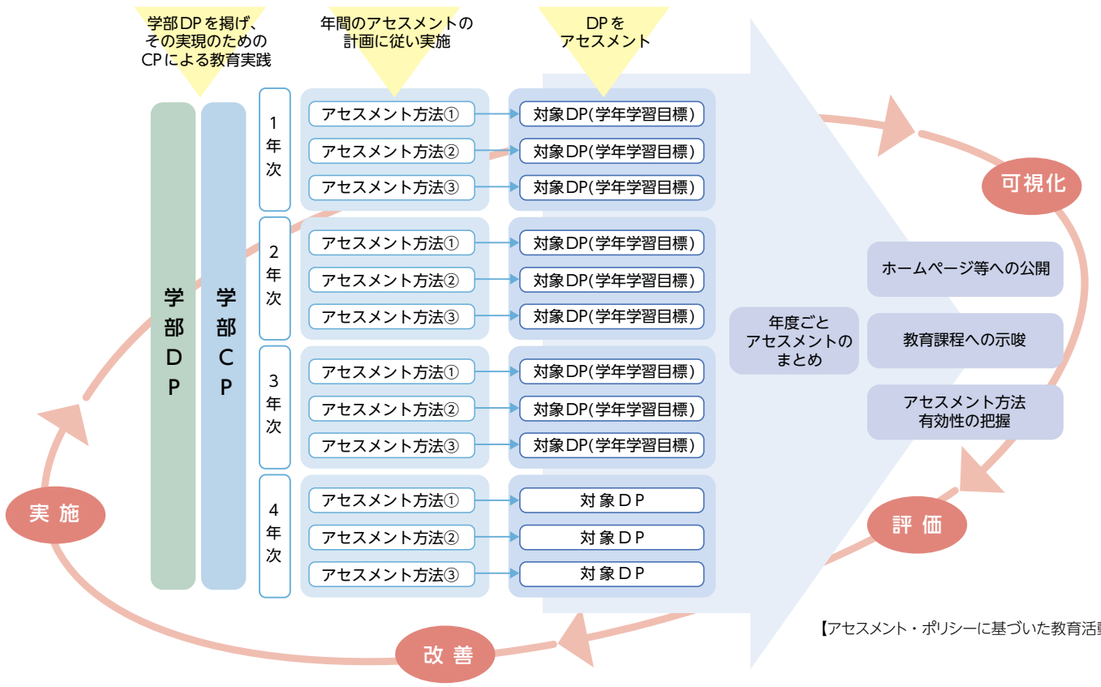
教学マネジメントは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義されています（中教審 2020 ）。よって、その運営には、「 目的の達成を評価する」活動が自ずと求められます。アセスメント・ポリシーは、その教育活動の評価の方針（ポリシー）であり、具体的には 学生の学修成果について、その目的、達成すべき質的水準 とその評価方法、また実施の手順などについて定めた学内の方針を指します。

アセスメント・ポリシーの意義

本学では実質的な教学マネジメントを行うために、その運営にかかわる重要な方針を定めるべく、平成 30 年度に四年制学部及び短期大学部の DP、CP、AP を策定し、それぞれの方針に基づき、令和２年度にはアセスメント・ポリシーを策定しました。アセスメント・ポリシーは、本学の教育目標が実現されているかを可視化し、その内容を教員、学生が共有できることを目指しています。効果的かつ継続的な学修成果のアセスメントにより、教員にとっては、教育内容・方法の評価・改善、学生にとっては、自身の学修成果の把握と振り返りと、それぞれ改善・進化に向けての取り組みにつながります。

教育活動の評価において、もっとも重要なことは、そのアセスメントに用いるデータの有効性です。本学は、アセスメントのためのデータを有効に活用するための組織体制として、令和４年度に教学 IR（InstitutionalResearch）センターを設置し、有効な教育データの活用と運用に同時に取り組むことにしました。各学部等における日々の教育実践を、教学 IR センターに集められた有効なデータを用いて可視化し、それをもとにして評価、改善、新たな教育実践という継続的なサイクルを動かします。このサイクルによって教学マネジメントの基盤となることが期待されます。

学位授与方針 ディプロマ・ポリシー、DP	学位授与の基本的な考え方として修了要件、期待する能力
教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー、CP	DP 達成のために必要な教育課程の編成、教育内容・方法について基本的な考え方
入学者受け入れ方針 アドミッション・ポリシー、AP	大学が求める学生像、及び入学選抜のための基本的な考え方



【アセスメント・ポリシーに基づいた教育活動】

「数学」の教員免許が取得可能に

ソフトウェア情報学部では、令和４年４月より、中学校教諭一種免許状（数学）と高校教諭一種免許状（数学）が取得できる教職課程を新たにスタートさせました。これによりこれまで取得可能であった高校教諭一種免許状（情報）に加え、最大で３つの免許状【中学（数学）、高校（数学）、高校（情報）】の取得が可能となりました。

このようにソフトウェア情報学部では、岩手県の数学・情報教育を担う中学･高校教員の育成に注力し、卒業生の県内就職率の向上を図るとともに、岩手県への貢献を目指しています。

令和３年度中は、教職課程（数学）開設に向けた文部科学省への申請対応を最重要事項とし、11月中旬の認定通知を受けた後、多数の令和４年度新入生教職履修希望者獲得に向け、PRポスターの作成配布、プレスリリース（岩手日報等掲載）、WebページやSNS上での情報発信、岩手県立高等学校長や進路指導教員が参加する大学進学懇談会（16校会議）でのPR活動を行うなど積極的に活動しました。その結果、４月に履修希望調査を行ったところ、新入生全161名のうち43名の教職課程履修希望がありました。これは過去に比べ３倍以上の数値となっています。

今後は、令和３年度に設置した教職教育センター、令和４年度に設置したソフトウェア情報学部教職課程委員会などの組織力を活用し、教員免許取得希望者の育成を実現します。

学び合い文化創造事業の展開

本学では、学内で学生の主体的な学修を醸成するための学修環境の整備に取り組んでいます。様々な学修の機会を学生に提供し、高等学校などでの「与えられた授業・課題をこなす」から、学士課程の「自ら学ぶ」への移行、さらに、将来的には異なる学年や異なる学部の学生同士が「学び合う」大学文化への展開を目指しています。

令和３年度は、ライブラリー・アテンダント（ＬＡ）と職員の協働企画により、社会的マイノリティを対象にエンパワメントの推進に取り組む県内団体「いわてレインボーマーチ」他からゲストを迎え、多様な性や生き方について理解を深めるトークイベント「わたしの生と性」を開催しました。

※LA（ライブラリー･アテンダント）=図書館の利用案内、企画展示などを行う学生スタッフ

LAイベント「わたしの生と性」

図書館展示「わたしの生と性」

オンラインでの国際交流

各学部において「国際的視野を持つ人材育成」、「学生の主体的・積極的な交流活動」を支援するため、協定締結校等とのオンラインによる国際遠隔授業・実習・研修・交流会を実施しました。

実施後､学生から「達成感があり参加してよかった。」､「オンラインだが直接現地との交流ができ良かった。」、「金銭的な負担が少なく良かった。」等の声が寄せられました。

※オンライン交流等の実施校

- ノースカロライナ大学ウィルミントン校
- ワシントン州立大学
- 鐘路老人総合福祉館
- 韓国慶熙大学校　他

ワシントン州立大学とのオンライン交流

令和４年度入学及び令和３年度卒業・就職の状況

令和４年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和４年度入学者選抜においては、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人選抜などを実施し、実質倍率は4大学部で3.1倍（前年度比0.3ポイント増）、大学院で1.1倍（前年度と同じ）、盛岡短期大学部で1.3倍（前年度と同じ）、宮古短期大学部で1.2倍（同0.3ポイント減）となっています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学志願者の確保に努めるとともに、入試改善に取り組んでいます。

令和４年度入学者選抜結果

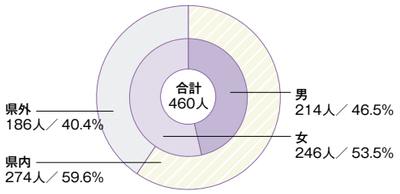
（単位：人、倍）

学　部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	90	470	257	96	2.7
社会福祉学部	90	340	248	109	2.3
社会福祉学科	50	143	100	61	1.6
人間福祉学科	40	197	148	48	3.1
ソフトウェア情報学部	160	648	467	173	2.7
総合政策学部	100	865	584	116	5.0
計	**440**	**2,323**	**1,556**	**494**	**3.1**
学　部（編入学）	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学部	10	7	7	5	1.4
社会福祉学部	10	16	16	8	2.0
社会福祉学科	5	9	9	5	1.8
人間福祉学科	5	7	7	3	2.3
ソフトウェア情報学部	10	31	31	15	2.1
総合政策学部	10	37	37	12	3.1
計	**40**	**91**	**91**	**40**	**2.3**
大学院	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学研究科看護学専攻	13	12	12	11	1.1
社会福祉学研究科社会福祉学専攻	18	12	12	9	1.3
ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報学専攻	50	48	48	47	1.0
総合政策研究科総合政策専攻	13	4	4	3	1.3
計	**94**	**76**	**76**	**70**	**1.1**
盛岡短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
生活科学科	50	104	97	76	1.3
生活デザイン専攻	25	43	42	36	1.2
食物栄養学専攻	25	61	55	40	1.4
国際文化学科	50	144	136	102	1.3
計	**100**	**248**	**233**	**178**	**1.3**
宮古短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
経営情報学科	**100**	**178**	**171**	**146**	**1.2**

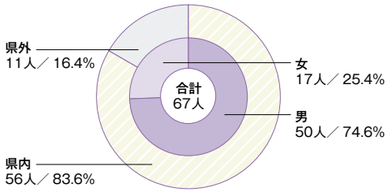
（注）実質倍率＝受験者数÷合格者数

令和４年度入学者の内訳

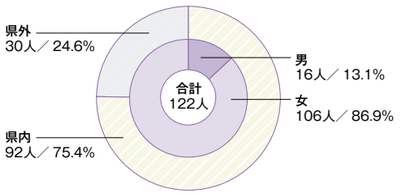
【学部】



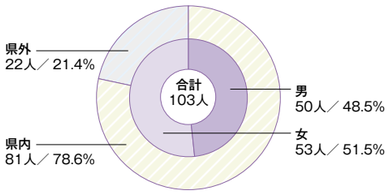
【大学院】



【盛岡短期大学部】



【宮古短期大学部】



高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

対面での入試説明会や相談会に加え、随時、入試オンライン相談会を開催しているほか、大学見学では、大学の説明と施設の見学を実施しています。

また、本学での学修内容に触れる機会として、授業見学、高校への出張講義、サマーセミナー等を開催しています。

大学見学や相談会の際には、学生で構成する学生広報団体（Campus Attendant　キャンパス・アテンダント）が自身の体験談発表やキャンパスガイドを実施し、実際の学生の声が聴けるということで好評を得ています。

キャンパス・アテンダントによるキャンパスガイド

高大連携事業	内　　容
高校訪問	入試の情報提供や本学への意見を聴取。
出張講義・オンライン模擬講義	高校等での模擬講義、探究学習への支援を実施。高校等の希望に応じてオンラインで実施。
大学見学	高校生等の見学の受入。
授業見学	高校生の講義見学を受入。
高校教員大学説明会	高校教員へ各学部の特徴や入試の概要説明。
入試相談会	沿岸・県北地区等の高校会場、盛岡（アイーナキャンパス）等で高校生・保護者向け入試相談会を開催。
入試オンライン相談会	入試相談会をオンラインで開催。
キャンパス・アテンダント（ＣＡ）活動	説明会等での体験談発表やキャンパスガイド等を実施。高校生の質問・相談の場ＣＡカフェを実施。
サマーセミナー	夏休みや休日の期間を活用し、「研究室体験」「授業体験」の機会を提供。
いわて高校生小論文コンクール	県内の高校生向けに小論文を募集。
デジタルオープンキャンパス	Web 上で入試説明会及びキャンパス・アテンダント（ＣＡ）企画（キャンパスツアー、イベント等）を実施。

インターネット出願の導入

令和４年度入学者一般選抜から、インターネット出願を導入しました。志願者にとっては出願書類作成の効率化が図られることに加えて、入学検定料の支払い方法がクレジットカードやネットバンキングにも拡充されるとともに、志願に必要な項目の記入漏れを防ぐ効果があります。また、志願者登録情報のデジタル化により志願者受付業務の効率化が図られることから、令和５年度入学者選抜ではインターネット出願対象を増やす予定です。

令和３年度の卒業者及び就職の状況

令和3年度の卒業者は、4大学部446人、大学院修了者48人、盛岡短期大学部107人、宮古短期大学部94人で計695人でした。

卒業者の進路は、4大学部は、就職内定者377人（うち県内187人、県外190人）、大学院等進学49人、その他10人。盛岡短期大学部は、就職内定者77人（うち県内57人、県外20人）、進学者26人、その他1人。宮古短期大学部は、就職内定者62人（うち県内48人、県外14人）、進学者24人、その他5人でした。

就職内定率は、4大学部97.4%、盛岡短期大学部96.3%、宮古短期大学部95.4%でした。

令和３年度の卒業者の状況

令和4年3月卒業生における数値（単位：人）

学部	看護学部	社会福祉学部	ソフトウェア情報学部	総合政策学部	合計
卒業者	83	96	161	106	446
就職希望者	78 (94.0)	89 (92.7)	119 (73.9)	101 (95.3)	387(86.8)
就職内定者（うち県内）	78 (52)	88 (45)	114 (26)	97 (64)	377(187)
就職内定率	100%	98.9%	95.8%	96.0%	97.4%
進学者	5	6	34	4	49
その他	0	1	8	1	10

大学院修了者	看護学研究科		社会福祉学研究科		ソフトウェア情報学研究科		総合政策研究科		合計
	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
	2	0	6	1	32	4	3	0	48

短大	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
卒業者	107	94
就職希望者	80 (74.8)	65 (69.1)
就職内定者（うち県内）	77 (57)	62 (48)
就職内定率	96.3%	95.4%
進学者	26	24
その他	1	5

(注)「就職希望者」欄の（　）内の数字は、卒業者に対する就職希望者の割合
(注)「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和４年３月31日現在の内容を以て決定
(注)その他は、療養に専念、家事従事、進学・留学準備、一般的な就職の概念になじまない就業（準備）の者等

就業力育成の取組

本学では、学生が県内企業の魅力や仕事の内容を理解し、自らのキャリアや働くことの意味を早い段階から考えることを目的として、業界研究セミナーを開催しています。

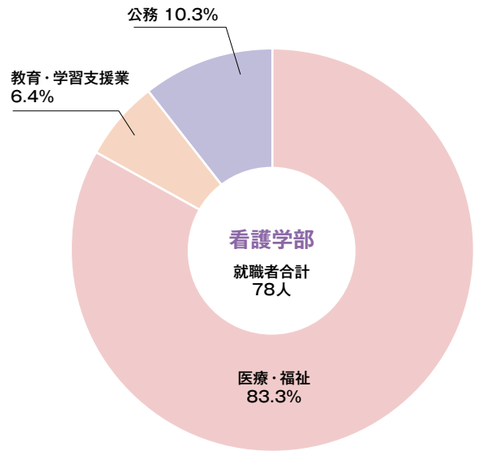
令和3年度は、いわてで働こう推進協議会との共催により、県内15事業所がオンラインにより参加し、滝沢、宮古キャンパス合計で82人の学生が参加しました。

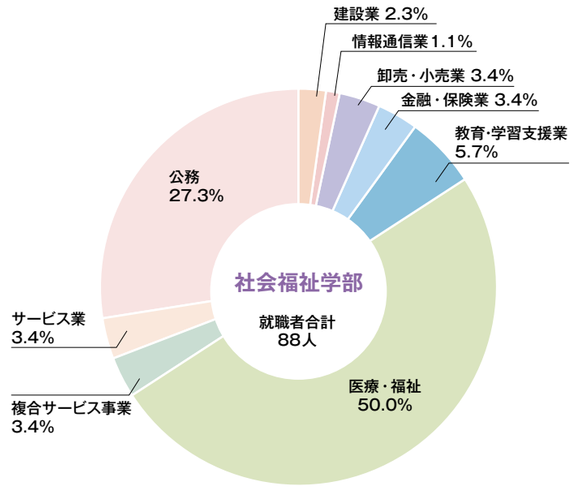
業界研究セミナーでは、県内企業等で働く卒業生などからアドバイスをもらったり、質問をしたりすることができ、社会人との関わりを通して、「職業観」、「ビジネスマナー実践」、「職業選択基準の明確化」等における資質の向上を図っています。

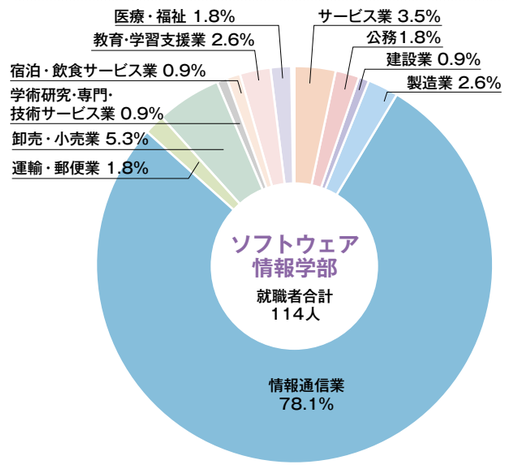
また、本学では、学生が就職活動を行う上で必要なスキルを明示した、本学独自の「就職活動ロードマップ」を活用し、学生の自律的な就職活動の促進にも力を入れています。

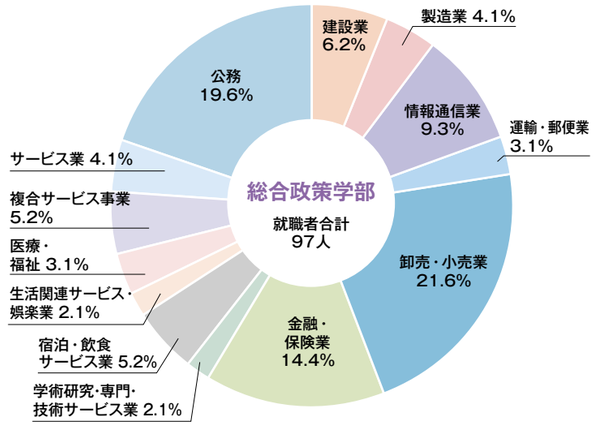
業界研究セミナーの様子（令和３年12月15日）

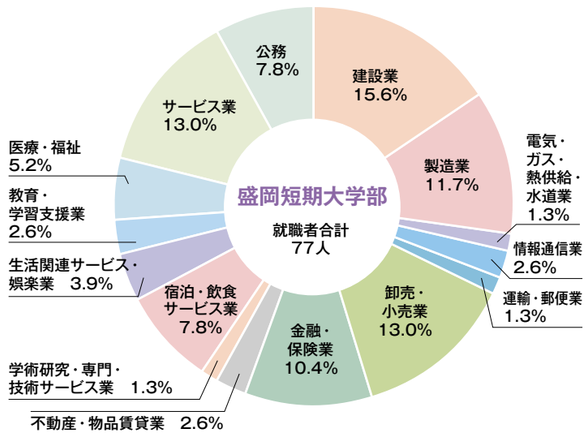
令和３年度卒業生の主な就職内定先

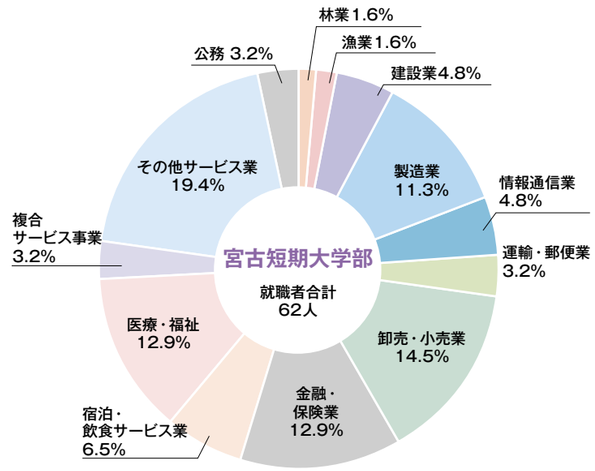












令和３年度財務状況

多様な資金の獲得と効果的な大学運営

令和３年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

岩手県立大学の財務状況（令和4年3月31日現在）

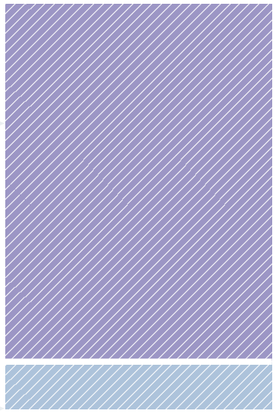
資　産

Ⅰ 固定資産　19,315,942 千円

岩手県立大学の建物や土地、機械装置、車両、図書などの資産
(内訳)
有形固定資産　19,204,667千円
無形固定資産　33,596千円
投資その他の資産　77,679千円

Ⅱ 流動資産　3,272,776 千円

預金や重油等、貯蔵品などの資産



資産合計
22,588,719 千円

負債・純資産

負債・純資産合計
22,588,719 千円

負債　3,030,648 千円

資産見返負債※、長期未払金や未払金
(内訳)
固定負債　2,434,285千円
流動負債　596,362千円

純資産　19,558,071 千円

資本金や教育研究・施設環境充実のための積立金などの資本
(内訳)
資本金　32,679,099 千円
資本剰余金△15,797,808 千円
利益剰余金　2,676,780 千円

※資産見返負債とは、法人が固定資産を継承・取得した場合に、当該資産の見返りとして同額を負債に計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取崩して収益化する、減価償却による損益計算への影響を与えないための公立大学法人特有の処理です。　(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和３年度の収支状況〈収入〉

岩手県立大学における収入の61.7%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等から資産見返負債戻入を除いた自主財源の割合は35.8%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
運営費交付金	3,856,403	61.7	県から運営費として交付されたもの
授業料	1,219,953	19.5	大学独自の収入（自主財源）
入学金及び検定料	237,502	3.8	
産学連携等研究収益	47,523	0.7	企業や団体から委託された研究及び事業における収入
補助金等	408,475	6.5	施設等整備事業費補助金、寄付金等
寄付金	10,653	0.2	
資産見返負債戻入	159,890	2.6	
その他	93,191	1.5	
目的積立金取崩	220,908	3.5	
合計（A）	6,254,502		

令和３年度の収支状況〈支出〉

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ35.3%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
教育経費	1,374,566	23.8	大学教育及び研究等に係る経費
研究経費	499,423	8.6	
教育研究支援経費	165,973	2.9	
産学連携等研究経費	45,990	0.8	企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費
役員人件費	15,819	0.3	役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費
教員人件費	2,415,746	41.9	
職員人件費	834,131	14.5	
一般管理費等	415,804	7.2	光熱水費、修繕費、消耗品費等
合計（B）	5,767,456		

※資産見返負債戻入とは、資産見返負債から資産減価償却額の見合いを収益化したものです。
(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和３年度収支（A-B）　487,046 千円

学生及び教員一人あたりにかかる経費［令和３年度］

令和3年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計57億6,745万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部を含めた、学生一人あたりの教育経費は約105万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約250万円です。

大学教育及び研究等にかかる経費

総計
4,455,708千円

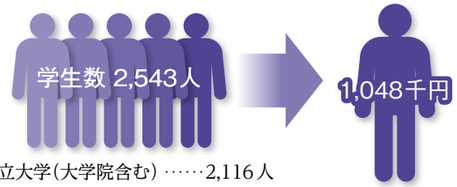
教育経費 …… 1,374,566千円
研究経費 …… 499,423千円
教育研究支援経費 …… 165,973千円
教員人件費 …… 2,415,746千円

学生一人あたりの教育経費

教育経費総計
2,665,425千円

内訳
教育経費…… 1,374,566千円
教育研究支援経費×1/2…… 82,986千円
教員人件費×1/2※2…… 1,207,873千円

÷



内訳
岩手県立大学（大学院含む）……2,116人
盛岡短期大学部 ……217人
宮古短期大学部 ……210人

※2　教員は教育と研究を行うため、教育に係る人件費を 1/2 としました。

教員一人あたりの研究経費

研究経費総計
582,409千円

内訳
研究経費…… 499,423千円
教育研究支援経費×1/2…… 82,986千円

÷

(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

column　岩手県立大学未来創造基金

本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動等を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金（1口1,000円）及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

○教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
○学生及び外国人留学生に対する支援事業
○産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
○被災地の復興を支援するために必要な事業
○施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業

これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の充実や構内の外灯設置などに活用しています。

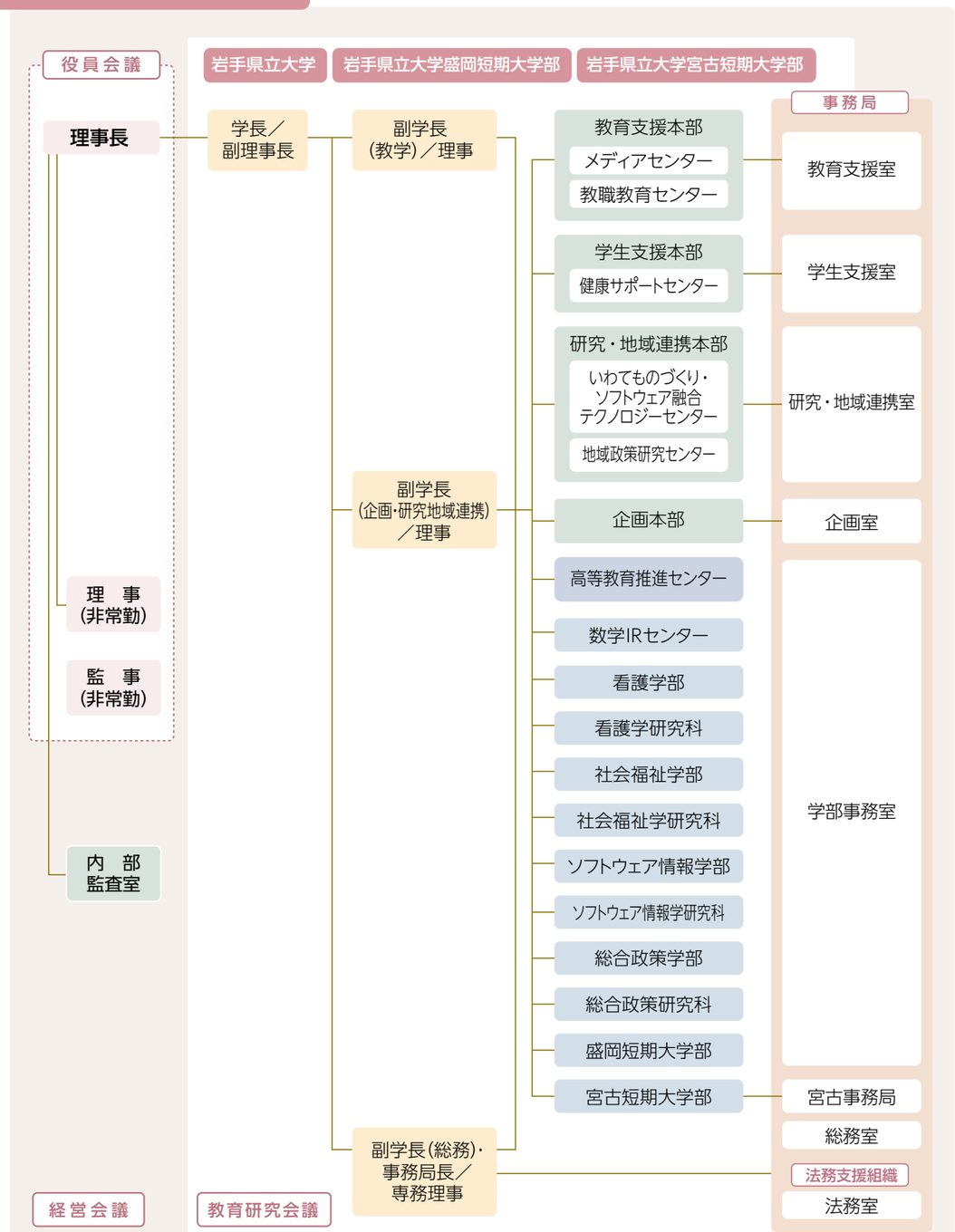
今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらいわての未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いします。

トレーニング室に設置されたトレッドミル

構内に設置された外灯

組織図・役職員

公立大学法人岩手県立大学



役員

公立大学法人岩手県立大学

	岩手県立大学	岩手県立大学 盛岡短期大学部	岩手県立大学 宮古短期大学部
理事長 千葉 茂樹	学長 鈴木 厚人		
副理事長 鈴木 厚人	副学長（教学）／高等教育推進センター長 石堂 淳		
専務理事 宮野 孝志	副学長（企画・研究地域連携）／研究・地域連携本部長 狩野 徹		
理事 石堂 淳	副学長（総務）／事務局長 宮野 孝志		
理事 狩野 徹	教育支援本部長 猪股 俊光		
理事（非常勤） 藤村 文昭	学生支援本部長 三上 邦彦		
理事（非常勤） 小原 忍	企画本部長 橋本 浩二		
監事（非常勤） 桝田 裕之	看護学部長 看護学研究科長 福島 裕子	盛岡短期大学部長 川﨑 雅志	宮古短期大学部長 松田 淳
監事（非常勤） 三河 春彦	社会福祉学部長 社会福祉学研究科長 高橋 聡		
	ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長 亀田 昌志		
	総合政策学部長 総合政策研究科長 高嶋 裕一		

理事長
千葉 茂樹

副理事長／学長
鈴木 厚人

理事／副学長（教学）／高等教育推進センター長
石堂 淳

理事／副学長（企画・研究地域連携）／研究・地域連携本部長
狩野 徹

専務理事／副学長（総務）／事務局長
宮野 孝志

教育支援本部長
猪股 俊光

学生支援本部長
三上 邦彦

企画本部長
橋本 浩二

看護学部長
看護学研究科長
福島 裕子

社会福祉学部長
社会福祉学研究科長
高橋 聡

ソフトウェア情報学部長
ソフトウェア情報学研究科長
亀田 昌志

総合政策学部長
総合政策研究科長
高嶋 裕一

盛岡短期大学部長
川﨑 雅志

宮古短期大学部長
松田 淳

※令和4年5月1日現在

教職員数

	岩手県立大学	岩手県立大学 盛岡短期大学部	岩手県立大学 宮古短期大学部
教授	59	7	4
准教授	74	9	4
講師	41	6	6
助教	13	2	0
助手	10	1	0
研究員等	3	0	0
教員計	**200**	**25**	**14**
職員	171		
教職員計	**410**		

滝沢キャンパス

看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・
総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・
看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・
総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
TEL 019-694-2000　FAX 019-694-2001
〈施設概要〉敷地面積（実　測）35.1ha
建物面積（延べ床）81,304㎡

地域連携棟（いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター）
〒020-0611 岩手県滝沢市巣子 152-89
TEL 019-694-3330　FAX 019-694-3331

宮古キャンパス

宮古短期大学部

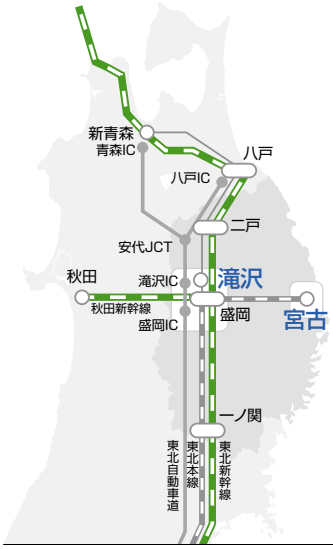
〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230　FAX 0193-64-2234
〈施設概要〉敷地面積（実　測）5.6ha
建物面積（延べ床）8,664 ㎡

アイーナキャンパス

サテライトキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）7 階
TEL 019-606-1770　FAX 019-606-1771
〈施設概要〉学習室、セミナー室等12室

岩手県立大学 アクセスマップ



滝沢キャンパスまでの経路

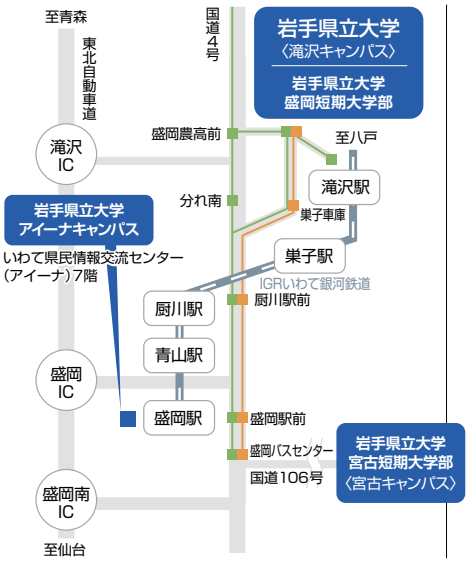
■バスで
岩手県交通「盛岡駅東口バス停②」から約40分、「県立大学前」バス停下車すぐ。

■鉄道で
IGRいわて銀河鉄道「盛岡駅」から15分、「滝沢駅」下車、徒歩約15分。
※「滝沢駅前」から「県立大学前」までの路線バスもあります。

■車で
東北自動車道「滝沢IC」から約5分（国道4号を青森方面へ出て、2つめの交差点を右折してすぐ）。

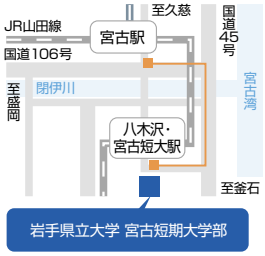
アイーナキャンパスまでの経路

盛岡駅西口から徒歩3分



宮古キャンパスまでの経路

盛岡から106急行バスまたはJR山田線で宮古駅まで約2時間。宮古駅バスのりば2番線から「B02八木沢循環」乗車、「宮古短大前」バス停下車すぐ。または宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」下車徒歩15分。



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52
Tel019-694-2000　Fax019-694-2001
https://www.iwate-pu.ac.jp

詳しくはHPをご覧ください
岩手県立大学　検索